



松本歯科大学市民公開講座を開催



受講者からの質問に答える増田教授（左）と長谷川歯学部長（右）

口の健康の大切さを市民に呼びかけ
地域を志向した大学として健康増進に貢献

松本歯科大学市民公開講座が1月11日（土）よりスタートした。塩尻市・塩尻市教育委員会の後援を受け、市民交流センターにおいて「口の健康を育てる、守る、取り戻す」をテーマに全5回シリーズで行う。11日は歯学部長で口腔病理学講座の長谷川博雅教授と総合歯科医学研究所の増田裕次教授が「口の健康の大切さ——あなたは気にかけていますか？」と題して、18日（土）は歯科保存学第1講座の吉成伸夫教授が「歯周病の恐ろしさ」と題して講演し、口腔機能の重要性について解説した。両日とも40人を超える市民の方々が熱心に受講し、講演後は多くの質問が寄せられて、活気に満ちた公開講座となった。

大学の責務は、教育と研究と社会貢献である。本学はこのほど「地域を志向した大学」への整備ワーキンググループを学内に立ち上げ、今後は自治体と連携しながら地域の健康増進を活性化させる拠点として社会に貢献する活動をよりいっそう推進していく。公開講座はその一環で、市民の口の健康に関する意識を高めるのが目的。

第1回目となる11日の公開講座では、まず長谷川歯学部長が口の病気に
ついて説明し、むし歯や歯周病のほか、
口内炎、骨髄炎、口腔癌、あごの腫瘍、
アレルギーなど多岐にわたる症例を紹介

介した。悪性新生物(がん)の部位別死亡率では、口腔と咽頭のがんは子宮がんと同じ死亡率でけっして低くはない。また、むし歯は放っておくと細菌感染が拡大し皮膚病や腎臓病、関節リウマチなど全身の病気を招く可能性があり、歯周病は動脈硬化症を悪化させることなどを話して、「重症になる前に検診を受けて、早期に発見し治療することが大切。口は全身の鏡ですから、歯や歯ぐきの健康に気を使うことで全身の健康を育み、健康寿命を延伸させましょう」と呼びかけた。



吉成教授は歯周病について講演

活習慣病との関係について講演した。歯周病原菌やその毒素、酵素などが歯周組織の血管に入り全身を循環する結果、糖尿病や心臓血管疾患を悪化させることを解説。とりわけ、歯周病と糖尿病は密接な相互関係にあり、糖尿病の人は歯周病になりやすいが、適切な歯周病治療を行えば血糖値を抑え糖尿病が好転する症例を紹介した。また歯周病が心臓血管疾患を引き起こす病変波及経路やメタボリックシンドロームとの関係についても触れた。最後に「歯周病などの歯科治療全般を通して歯を失わずにちゃんと噛める状態を保つことで、生活習慣病の予防・治療ができ、健康長寿を伸ばすことにつながります」と話し、3カ月に1回の頻度で歯科医院

の検診を受けることをすすめた。両日とも40人を超える市民の方々が受講し、熱心に聴き入って、講演後は多くの質問が寄せられた。受講者からは「論理的な裏付けデータに基づく内容を分かりやすく話してくれた」「行政と連携した口の健康の意識の啓蒙は、地域に根ざす大学本来の活動として期待がもてた」などの感想が寄せられた。

この公開講座は、2月にも3回開催され、1日(土)には障害者歯科学講座の小笠原 正教授が「口腔ケアで健康長寿」、15日(土)には歯科補綴学講座の黒岩昭弘教授が「入れ歯と上手につきあう方法」、22日(土)は病院総合診療室の安東信行講師が「お子さんの口は大丈夫？」と題して講演する。

お天気歳時記
 元日本気象協会調査役
 お天気コンサルタント

 有賀 淳
ありが あつし
 赤穂浪士の打ち入り、桜田門
 外の変、八甲田山死の彷徨、ま
 た二・二六事件と、歴史上の事
 故、事件などの文学作品には雪
 が結びついていて、一層忘れが
 たいものになっている。

樋口一葉は、東京の雪を「雪の日」と題して「見渡すかぎり地は銀沙（りゅうか）を敷きて、……枯木も春の六花（りゅうか）の眺めを、世にある人は歌にも詠み詩にも作り、月花に並べて称ゆらん浦山（うらやま）しさよ……雪は人の心を誘って過ぎし日を思い出させる不思議な触媒である」と書いている。

来年度は、新教育課程の教科（数学・理科）の試験科目が変更になるため、旧教育課程を履修した受験生に対する措置として、既卒者は新教育課程と旧教育課程の科目を選択できるよう

1945（昭和20）年2月25日の大雪だ。この時は東京都心部がB29の大編隊による大戦中最も大規模な空襲の真最中だったため、中央気象台は正確な積雪が記録されず幻の大雪となった。

大学入試センター試験
2日間の日程無事終了
本格的な入試シーズン幕開け

18日(土)・19日(日)の2日間、全国693会場(志願者数56万672人)で一斉に行われた。県内では13会場で1万137人が志願し、「松本歯科大学試験場」には、松本、木曽、岡谷、下諏訪地区の高校に通う3年生214人が受験に訪れた。18日夜から未明にかけて降った雪は積雪5cm程度と予想より少なく、受験生の足には影響がなかった。

本学におけるセンター試験は、英語のリスニング試験を含めすべての試験時間でトラブル等がなく無事終了した。

2月1日(土)・2日(日)には
一般入試(Ⅰ期)、特待生選考
試験(Ⅰ期)が、本学、東京
大阪の3会場で実施され、本格
の入試シーズンの幕開けとなる。

方が多くなってくる。
 暦では、4日は立春。冬至を
 折り返し点として春に向かって
 きた太陽がこの日、冬至と夏至
 の真中にあたる「春分点」を通



り過ぎる。それからどんなに寒い日が続いても暦は春。日没も冬至のころより40分も遅くなり、空は明るさを増し、水面に反射する光はまぶしい。この「光の春」の近づく実感は、冬の間雪雲におおわれた日本海側の人々はひとしおだろう。北陸地方の日照時間も日に日に増え、積雪は目に見えて減っていく。南国からはツバメ初見の便りが届く。やがて春一番が。

主張

寒さに負けないために

1月20日の大寒は過ぎたが、まだまだきびしい寒さが続いている。この季節は脳卒中で倒れる人が多くなるので、お年寄りがおられる家庭などでは、十分に注意する必要がある。

脳卒中とは「脳の急激な血液循環障害による症状。急に意識を失って倒れ、手足の随意運動が不能となる」(広辞苑)と定義され、脳出血、脳梗塞、クモ膜下出血などによつて発症する。加齢によつて動脈の血管壁の硬化が進行することは、だれにも避けられない。散水用のビニールホースやガスのゴム管が、経年変化でこわばつてひび割れてくると、まったく同様の現象である。

脳や心臓などの重要な臓器に、硬化して弾力を失つた血管を通じて十分な血液灌流を行うために、必然的に血圧上昇が生じるのだが、脆弱化した血管に無理

な圧力が加われば破綻しかねない。その結果が「脳出血」であり、昔は「脳溢血」と呼ばれて、ながらく日本人の死因の第1位を占め続けていた。

異常な高血圧が生じなかったとしても、加齢とともに動脈壁に沈着したアテローム（粥腫）のため動脈内腔が狭小化したため、そのアテロームが剥がれ落ちて血栓となったりして、血管狭窄や閉塞で血液灌流が不十分となることがある。これが心臓に起これば狭心症や心筋梗塞、脳ならば「脳梗塞」ということになる。高齢者では急激な血圧降下で発症することもある。以前は虚血により壊死した脳組織の解剖所見から「脳軟化症」と呼ばれていた。

クモ膜下出血（SAH）は脳を覆う髄膜の2層目のクモ膜と3層目の軟膜の間のクモ膜下腔の出血で脳卒中の約8%、突然

死の7%弱の原因とされる。

頭部外傷や脳腫瘍、あるいは脳動静脈奇形などと関係して生じることもあるが、大半は動脈瘤の破裂で、血管奇形があれば子どもや若年者にも起こりうるが、動脈硬化の進行はその危険性を増す。

これらのような脳卒中のひとつが、急激な血圧変動によって惹き起こされているに注目しなければならない。

たとえば、暖かい布団のなかから寝ていたお年寄りが尿意を催したとする。暖房されていない廊下やトイレの寒気にさらされれば、皮膚の毛細血管が収縮して、末梢抵抗の増大による血圧が数10mmHg上昇する。この程度の循環動態の変動は健康な若年者にはまったく問題ないのだが、動脈硬化が進行した高齢者では脳血管を破綻させて脳出血を生じるおそれがある。

充滿していた膀胱が排尿により空虚となった際の迷走神経反射による急激な血圧降下も脳血流減少の危険を生じかねない。

ヒートショック、すなわち急激な温度変化が急激な循環動態の変動につながって、脳卒中や心筋梗塞を誘発するケースとして、入浴時の発症も少なくはない。入浴中に亡くなる人は日本全国で年間1万4千人にも達すると推計されている。先日逝去された本学名誉教授・甘利光治先生も、風呂場で倒れたととうかがった。厚生労働省や日本医師会などが注意を呼びかけている。

さて、ここまでは動脈硬化が進行した高齢者について、配慮が必要なることを話してきたが、危険なのはあくまでも「急激な温度変化」なのである。

子どもや若い人たちに対しては、むしろ「寒さで鍛える」という意識を持つことを望みたい。寒中水泳や寒稽古などが昔から積極的に取り組まれてきたのは、極寒のなかでの運動が一年を健康に過ごすために有益なこ

とが経験の積み重ねによつて害証されているからであらう。

人間は生きていくうえで、さまざまなストレスにさらされる。そのために生体は自律神経系や内分泌系などさまざまな機構で生理的にコントロールしている。

たとえば、暑ければ汗を掻いて体温を下げ、寒ければ皮膚の毛細血管を収縮させ、体を震わせて体温の上昇を図る。恒常性維持のために、交感神経と迷走神経とが巧妙に機能している。

ところが、エアコンの普及で、冷暖房完備の生活に馴染んでしまった現代人では、体がすっかり甘やかされて、体温調節など自律神経機能が脆弱化しているという。小中学校などでも朝礼で倒れるような子どもが多くなくなつてしまった。

生理的予備力を高めるためには、体にある程度の負荷をかける必要がある。将来の脳卒中や心筋梗塞を予防するためにも、若い読者の皆さんに「寒い時期こそ屋外で運動を」と呼びかけたい。

(笠原 浩)

12月17日（火）、一般社団法人・発明推進協会による広域知的財産アドバイザー（INPI-T）のワーキンググループ会議が創立30年記念棟「奥穂高・前穂高」の間で開かれ、本学の産学官連携室長を務める増田裕次



産学官連携活動について話す増田室長

教授（総合歯科医学研究所顎口腔機能制御学部門）が「松本歯科大学における産学連携」と題して約40分間講演した。

INPITは大学などにおける知的財産活動を推進し、発明の創出から権利活用までの網羅的な支援策を展開している。本学の産学連携活動・知的財産活動の実例を学び、得られた知識を有効なツールに反映させていきたいとの要望に応じ、増田教授は産学官連携ポリシーや推進室の体制について説明した。

また、主な成果物として、歯周ポケットの洗浄針や歯科矯正材料バツカルチュープをはじめ、口唇閉鎖力測定装置、実験動物用3DX線CT装置、口唇開口器具ハミールなどを紹介。さらに地域に向けての活動として、地元企業と大学教員による「病院ニーズ産業化研修会」や、大学と企業がお互いをよく知るための病院見学会、企業見学会などを実施した事例を述べた。

講演後、ワーキンググループのメンバーからは、特許出願件数、産学連携の定着などについて

水 (sniffles) が出たり、くしゃみやみ (sneezing) が止まらなくなったりしていたことがありました。その症状はしばらく続いて、良くなったかと思うと、また始まります。こんな状態が、何カ月が続くので、医者に行こうかと思ったくらいです。

とところがある日、もしかして…と思う当たることがありました。それは、ちょうどそのころ風邪がはやりだす季節 (cold season) だったので、人込みに出る際、予防のためにと紙マスクをしていました。

それで試しにマスクをせずに買い物などに行くようにしたところ、その症状はピタリと止まりました。どうも私はそのマスク

コンソーシアム信州 第34回 K³ 茶論
障害者歯科学講座・小笠原 正教授が講義



長野県内8大学が連携する「コンソーシアム信州」では、教育研究資源の有効活用のため高速通信ネットワークを用いた遠隔講義「K³茶論」を定期的に開いている。第34回のK³茶論は1月15日（水）に本学障害者歯科学講座の小笠原 正教授が「食べることを支援する口腔ケア」と題して講義館203教室

で講演し、その内容は信州大学など他の加盟大学の会場に配信された。

小笠原教授は「口腔ケアは、むし歯、歯周病、口臭の予防をはじめ、味覚改善や全身的健康への寄与、QOLの向上、栄養改善・免疫機能の向上、嚥下機能の改善、運動機能の維持・向上につながります」と話し、口腔ケアは食べることを支え全身状態を支える役割を果たすことを説明した。

食べることは、楽しみや喜びを感じ、生きていくために不可欠だが、病気や高齢のため食べられなくなることもある。小笠原教授は、老化や薬剤投与、脳卒中などの疾患が原因で起きる嚥下障害について解説し、要介護高齢者の直接死因は肺炎が33

%と最も高く、誤嚥性肺炎は反復して起こることが多いため、肺炎発生時の治療に加えて予防が重要であることを強調した。予防策としては口腔内細菌の増殖を抑える口腔清掃や、とろみをつけた食物の摂取、栄養改善や筋力トレーニングなどを挙げた。口腔内の上皮の水分量が減り上皮細胞の裂隙・剥離によって剥離上皮膜が形成された場合は、口腔内を清潔に保ち保湿剤による適切なケアが必要であるとした。また、手術を受ける人にも口腔ケアは役立つことを話し、がんや白血病患者者においては術後の誤嚥性肺炎などの予防、外科的手術後の合併症の軽減や発熱予防に効果があることを示唆した。

最後に「口腔ケアを施せば、

口のがが清潔になり、食欲が増して食べる樂しみが生まれます。しっかり食することで体力がつき、活力がみなぎり積極性が増します。さらに口の機能を

研究者が一堂に会し
硬組織研

12月21日(土)に松本歯科大学硬組織研究グループを中心とする年末研究報告会が実習館2階のセミナー室で開催された。本報告会は、骨と歯の基礎研究を行っている本学の研究者が一堂に会し、1年間の研究の成果を発表し、討議するものであり、今回で12回目となった。

当日は総合歯科医学研究所、

研究者が一堂に会し研究成果を発表・討議
硬組織研究グループ年末報告会

生化学、解剖学、菌科保存学講座から20人あまりの研究者が集合し、パワーポイントと配布資料を用いて、新しく見出した研究の成果について熱く討論を行うことができた。本研究グループは、毎週2回早朝7時半よりBone Clubと称する抄読会や研究進捗会議を行っており、その集大成としての年末報告会での



て多くの質問が寄せられ、関心の高さが伺われた。

ある。

本書の使命である学部学生へのきめ細やかな教育の実現に全力投球しながら、本学オリジナルな研究成果を発信するために今後も日夜努力していきたい。

学長補佐 口腔化学講座 教授 宇田川信之

の症状の他にも、次のようにいろいろな例がありますので、ここにいくつか挙げてみます。

sniff 匂いをかぐ

sneez ぐしゃみをする

suffle すすり泣く

snooze 居眠りする

snore いびきをかく

snoop かぎまわる、詮索する

(注＝Snooty スヌーピー)

口腔衛生学講座・牧 茂教授が県シニア大学で講義 よい歯でよく噛み「歯っぴー人生！」



県シニア大学の受講生に講義をする牧教授

口腔衛生学講座の牧 茂教授は長野県シニア大学松本学部の受講生2グループ計300人を対象に、1月20日（月）は松本市総合福祉社会センターにおいて、27日（月）は松本合同庁舎において、「歯っぴー人生！」と題して講義を行い、歯の大切さを説いた。

牧教授ははじめに、歯にまつわる俳句やことわざなどを引用しながら昔から歯は大切にされていたことを紹介し、21世紀における国民健康づくり運動「健康日本21」においても健康長寿のために歯の健康が重要視されていることを話した。

続いて、よく噛むことの効果として、1. 肥満を防ぐ、2. 味覚の発達を促す、3. 言葉の発音をはっきりさせる、4. 脳の働きを活発にする、5. 歯の病気を防ぐ口臭を少なくする、6. がんの予防、7. 胃腸の働きを促進する、8. 全身の体力向上とストレス解消の8つを挙げた。

また、大手自動車関連会社の健康保険組合の調べによると、

歯の定期健診を受けきちんとケアすると生活習慣病等の医科の医療費も低くなりトータルとして健保のコストは少なくなること、長野県歯科医師会の調べでは歯の残存本数が多いほど医科・歯科を含めた医療費が低いこと、多摩市の高齢者調査ではかかりつけ歯科医のいる人の生

「脳卒中急性期から維持期への対応と食支援」

第9回長野県・嚥下リハビリテーション研究会

12月7日（土）に、塩尻市のレザンホールにて、第9回長野県・嚥下リハビリテーション研究会が開催された。本研究会は本学障害者歯科学講座が事務局をしているもので、年1回の講演会と基礎から内視鏡実習を行う集中セミナーを開催している。

卒中急性期から維持期への対応と食支援」をテーマとして、本学の臨床教授である松尾浩一郎先生の「脳卒中とチーム医療」に始まり、馬場 尊先生（本学非常勤講師）の「脳卒中急性期の対応」、菊谷 武先生（日本歯科大学教授）の「地域で行う食支援」の3つの内容についてご講演をいただいた。

存率は維持されることなどのデータを示し、歯の手入れの大切さを訴えた。正しい歯の磨き方や、歯周病とドライマウス（口腔乾燥症）の症状や予防対策についても解説し、最後に「長野県の歯科保健推進条例では、健康の原点ともいわれる歯や口腔の健康づく

りに関する施策をさらに充実させ推進していくと謳っている。よい歯で、よく噛み、よい身体！歯は人生の友です。皆さん自分の歯で食生活や会話を楽しく、豊かな表情を保って、ハッピーな生活を過ごしていただきたいと思います」と締めくくった。

松尾先生は、藤田保健衛生大学病院での経験を踏まえて、チーム連携について説明された。特に嚥下障害者における口腔の清潔は、リハビリテーションを行ううえでの前提条件であり、多職種連携のためのバスを活用することより口腔ケアのレベルが向上したと報告された。

馬場先生は、脳卒中の急性期では、廃用予防、口腔ケアによる肺炎予防、栄養管理、嚥下評価と訓練が重要で、脳卒中の経過の症状と対応について説明された。特に適切な嚥下機能評価、

障害者歯科学講座・岡田芳幸講師 FMS/Penaz Wesseling Awardを受賞 英国のThe Physiological Societyも高評価

2013年12月、イギリスのロンドンに本部を置くThe Physiological Societyが発した注目論文のひとつに、障害者歯科学講座・岡田芳幸講師の「Chronic renin inhibition lowers blood pressure and reduces upright muscle sympathetic nerve activity in hypertensive seniors」(Physiol 591 pp 5913-5922)が選ばれた。

同論文は第23回国際自律神経学会においてFMS/Penaz Wesseling Awardを受賞した研究をまとめたもので、高齢高血圧患者における長期のレニン阻害が中枢性調節に及ぼす影響を検証している。高血圧は心血管イベントの主因であり、麻酔科のTimothy B. Mayo Clinic（米



受賞と論文掲載を喜び岡田講師（右）と小笠原教授

Curry 博士は「高血圧治療は数字ゲームではない」と題して同論文にコメントした。Curry 博士は交感神経活動の上昇が末期臓器障害を引き起こすことは明らかであり、血圧値のみの低下は高血圧治療として不十分であると訴えたうえで、岡田らは交感神経活動増加に伴う高齢高血圧患者にとってレニン阻害が有効な治療となる可能性を見出したと評価した。

今後、降圧治療において各薬物の生理学的影響を踏まえ、心血管イベントのリスクを軽減する適切な方法を選択する上でも重要な論文となった。

（障害者歯科学講座 教授 小笠原 正）

第1学年「情報リテラシー」発表会 コンピュータスキルを使い 堂々のプレゼンテーション

最近、若者によるツイッターの炎上事件が社会問題化しています。情報発信の基本を知らない若者が、自らあるいは友人の違法行為を安易に全世界に向けて発信し、ネット上で批判を受

け、最終的には社会的にも制裁を受けることもあります。そのような社会状況のなか、本学初年時教育の一環として、「情報リテラシー」の授業は、情報技術によって社会がどのように変革してきたかを理解し、情報化社会のなか自らを守るための方法を習得しながら、情報を的確に収集・検索する能力を身につけることを目的としています。

本年度は、ディスプレイ部分を取り外してパッドとしても使用できる形式の松本歯科大学仕様の最新のノート型コンピュータを各自用いて、マイクロソフトオフィスのソフトを中心にコンピュータスキルの習得や情報の活用方法に関する授業を行ってきました。

12月19日（木）、キャンパスイン101教室で、第1学年の学生全員が今までのコンピュータスキルを披露する発表会が約4時間にわたって行われまし



パワーポイントを使って発表する学生

た。過去3年間のニュースをもとに自ら考えたアンケートを、お互いに回答してもらい、その結果をエクセルで表やグラフとして作成しパワーポイントにまとめ、データに関する考察を発表しました。プレゼンテーションは各自のオリジナリティを感じさせるものでした。留学生も自分の伝えたい内容を堂々と発表することができました。



大勢の参加者が聴講した講演会

スムーズな多職種との連携が誤嚥性肺炎の発症を低下させることを強調された。維持期においては、咽頭ばかりでなく、口腔

内状態と咀嚼運動と食形態を観察することにより食形態を検討する重要性について事例を通して指摘された。

研究会参加者は言語聴覚士、看護師、歯科医師、歯科衛生士、施設職員など、日常的に摂食嚥下リハに関わる方から学生まで、250人を超える人が集まり、皆熱心に耳を傾けていた。これから先、さらにニーズが増える摂食嚥下の関心の高さを改めて感じた。

（病院特殊診療科 診療助手 鈴木貴之）

共用試験OSCEを実施

臨床技能の修得度を客観的に評価

1月25日（土）、共用試験の一つであるOSCE（客観的臨床技能試験）山本昭夫共用試験実行委員長）が、本館北棟ならびに病院を会場基盤にして実施され、2013年度第4学年生53人が受験しました。前日の24日（金）は午後1時から午後8時まで試験準備のための会場設営とテストラン、25日は本試験が午前9時半から午後4時まで行われました。本試験では、教員・事務職員併せて158人が実施に参加しました。これには本学教職員のほか医療系大学間共用試験実施評価機構より派遣された外部モニター2人と外部評価者6人（課題ごと1人）が含まれます。

試験の評価は外部評価者と本学の内部評価者と協働するかたちで行い、全国的に標準化された評価基準の下、本学の臨床情報化社会で通用する歯科医師・歯科医学研究者を目指すために、学生時代からのコンピュータ活用のハイレベル化とプレゼンテーション能力の向上を一層期待したいものです。

（口腔生化学講座 准教授 中村美どり）



本試験前日に行われたテストラン

（OSCE実施委員会 統括副委員長 藤井健男）

Alumni News

松本歯科大学校友会

6期生・佐藤 徹先生

日本歯科医師会常務理事に就任



佐藤先生（前列右から4人目）を囲み記念撮影する6期生の面々

2013年の12月22日（日）、お茶の水の東京ガーデンパレスにおいて、6期会が佐藤 徹先生（新潟県6期生）の「日本歯科医師会常務理事就任祝賀会」を開催した。

佐藤先生は、7月から日本歯科医師会の地域保健・産業保健

担当常務理事として活躍されており、松本歯科大学の卒業生では初めての大会である。

祝賀会には、北は青森県の中田一穂先生、南は鹿児島県の竹内敏郎先生をはじめ全国から36

人の6期生が集まった。

祝賀会に先立ち、佐藤先生から「歯科医療経済の近況から今後を考える」と題して講演していただいた。2013年の医療経済実態調査から歯科医療をさまざまな医療職と比較し、現在の歯科の経済状況や社会背景を分析し、超高齢社会の実態に対応する政府の方向性を示された。そして長年の歯科医師会活動で培った経験と知識から、歯科界の未来を見据えた内容を分かりやすく話された。

参加者一同は佐藤先生の見識の高さに感心するとともに、今後の地域歯科医療の展開のために大いに参考になると感想を述べた。

祝賀会は石原善和先生（新潟県）の司会進行のもと、実行委員長の小穴 実先生（長野県）の祝辞後に最遠方から駆けつけた竹内先生の乾杯の音頭で始ま

った。

佐藤先生に対するお祝いや励ましの言葉を出席者一人ひとりが述べ、また欠席者からのメッセージも懐かしい学生時代の写真とともに紹介した。なかには学生時代の逸話も登場し、楽しい時間があつという間に過ぎた。佐藤先生からは、日本歯科医師会の常務理事としての抱負と6期生へのお礼の言葉が述べられた。

最後に佐藤先生のさらなる活躍を祈念し、今回の紅一点である須藤和香先生（東京都）の音頭で一本締めをして閉会となった。

なお、6期生は本年の夏ごろ「卒後30年記念会」の開催を予定しており、再び参集すること約束して二次会へ移った。参加者一同は、同級生の良さを改めて実感する機会となった。

（障害者歯科講座 教授 小笠原 正

石川県支部

岡藤範正教授を招き学術講演会を開催

「日常臨床に役立つ歯科矯正学的アプローチ」

2013年11月23日（土・祝）午後4時より、金沢辰口温泉「まつさき」において、毎年恒例である秋の水曜会学術講演会および懇親会が開催された。

例年とは異なり連休中の開催

であったが予想を上回る50人を超える熱心な会員が会場を埋め尽くした。

水曜会とは石川県内における所謂新設歯科大学・歯学部ならびに国立歯科大学・歯学部を併せ、1980（昭和55）年に会員相互の親睦

および歯科医学の研鑽を目的に発足した連合同窓会であり、校友会石川県支部も発足当初から所属している。



構成大学は22校で会員数は2000人を超え、今期より石川県歯科医師会・連池芳浩会長（大阪歯科大学）および理事3人を輩出し、本支部会員からも中塚 直先生（1期生）の県歯代議員

の4項目について、一般開業

（専門医指導医）
2013年12月1日
山川 洋子（1期生）
日本小児歯科学会専門医指導医

校友会伝言板

（石川県支部 25期生 武田植慶

大学院セミナー

東京工業大学・茶谷昌宏先生が講演
「メダカイメージングからみてきた破骨細胞の分化メカニズム」
―変異体解析から宇宙実験まで―

1月9日（木）、東京工業大学大学院生命理工学研究科生命情報専攻・助教の茶谷昌宏先生をお招きし、大学院セミナーを開催した。

茶谷先生は、若いメダカをモデル生物として、破骨細胞の形成機構を形態学と分子生物学の側面から解析し、得られた知見を丁寧にご説明された。

若いメダカは体が透明であり、骨や血管が透けて見える。茶谷先生は、破骨細胞の特異的な遺伝子であるTRAPやカテプシンKプロモーター制御下で蛍光色素が発現するトランスジェニックメダカを作製した。

トランスジェニックメダカを生きたままの状態で蛍光顕微鏡下において観察すると、破骨細胞の出現や消失などに関する空間的な情報を詳細に得ることができる。

感慨深いことに、メダカの系を用いて導き出した茶谷先生らの結論は、われわれがマウスを用いた系により導き出した結論と同じで、破骨細胞の形成部位の決定には、破骨細胞分化因子（RANKL）に加え骨芽細胞が発現する未同定の因子Xが必要とのことである。

茶谷先生らのトランスジェニックメダカは昨年、ロシアの宇宙船ソユーズに乗せられ、カザフスタンのバイコヌール宇宙基地より打ち上げられた。そこで、宇宙飛行士によって微小重力が破骨細胞の分化や活性に与える影響についての実験が行われた。

茶谷先生らのトランスジェニックメダカの系は、生体内の破骨細胞形成過程を骨組織、神経、血管などの発生の情報とあわせて総合的にリアルタイムで解析



講演をする茶谷先生

宇宙実験について解説

茶谷先生が所属する東京工業大学の工藤 明先生は、JAXA（宇宙航空研究開発機構）の支援を得て、メダカを宇宙に打ち上げ破骨細胞の機能を解析する科学実験（Medaka Osteoclast）を企画し実行しました。この内容は国際宇宙ステーション大特集として、2014年1月5日にNHKのEテレ科学教育番組「サイエンスZERO」でも放映され、大きな反響がありました。続く第2弾のメダカ宇宙実験は2月に予定されています。



ミッションロゴマーク

骨の発生・成長に関する宇宙実験としては、1992年に日本人宇宙飛行士として初めて毛利 衛飛行士が行ったニトリの卵をスペースシャトルに搭載する実験（昭和歯科大学歯学部須田立雄教授のグループが遂行）に次いだもので、その成果が期待されています。

人事異動

〔定年退職〕 12月26日付
松尾 昌利（事務局大学病院事務室事務員）
〔退職〕 12月31日付
青木枝里子（事務局大学病院事務室事務員）
〔契約満了〕 12月31日付
荒井 瑠美（事務局全館事務費係）
〔採用〕 12月27日付
松尾 昌利（事務局大学病院事務室契約職員）

塩原 正明（医科内科医師、臨床教授（小児科））
千田 奈実（医科眼科医師）
森 啓（歯学部講師、歯科存続第2講座）
中西 正人（臨床検査室臨床検査技師）
岡本 真平（事務局全館事務費係契約職員）
〔配置換業務〕 1月1日付
富田美穂子（事務局全館事務費係契約職員）
八上 公利（事務局全館事務費係契約職員）

2月行事予定

1日（土）2日（日）
一般入試（Ⅰ期）
センター利用入試（Ⅰ期）
特待生選考試験（Ⅰ期）
第107回歯科医師国家試験



宇宙実験会議にて毛利 衛氏（前列左から2人目）を囲んで…1991年昭和大学

Economic News

内外の経済 1月30日付

●株価
日本 15,007.06円
米国 15,738.79ドル
●金地金店頭価格（消費税込み）
売り（1グラム） 4,422円
買い（1グラム） 4,339円
●白金地金店頭価格（消費税込み）
売り（1グラム） 4,947円
買い（1グラム） 4,822円

東京外国為替相場と各国定期預金金利（3ヵ月物）
米ドル 103.45円 0.01%
英ポンド 170.50円 0.10%
ユーロ 140.80円 0.01%
スイスフラン 115.20円 0.01%
タイバツ 3.19円 0.10%
日本円 ——— 0.01%
（シティバンク調べ）

19日（水）
進級試験（第2～3学年）
27日（木）28日（金）
大学院発表会

17日（月）
衛生学院AO入試（Ⅱ期）
13日（木）
総合講義試験（第4学年）
12日（水）
衛生学院後期試験（第1～3学年）
7日（金）
共用試験CBT（第4学年）
10日（月）24日（月）
衛生学院後期試験（第1～3学年）
12日（水）
総合講義試験（第4学年）
13日（木）
衛生学院AO入試（Ⅱ期）
17日（月）
衛生学院AO入試（Ⅱ期）
19日（水）
進級試験（第2～3学年）
27日（木）28日（金）
大学院発表会



受験生の皆さんへ

一般入試（Ⅱ期）

センター利用入試（Ⅱ期）

特待生選考試験（Ⅱ期）

●試験日
3月1日（土）
●出願期間
2月10日（月）～ 2月25日（火）
●合格者発表
3月5日（水）
●試験場
本学・東京・大阪
■お問い合わせ■
HOT LINE 0263-54-3210
松本歯科大学 入試広報室
www.mdu.ac.jp